

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和6年8月15日

公表: 令和6年9月10日

事業所名 発達支援室さくらん房

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		法令に従って十分な訓練スペースを確保しています。	現状を維持します。
	2	職員の配置数は適切である	○		法令に従って職員の人員配置を行っています。	現状を維持します。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		車いすの方が来所された場合でも、移動・出入りができます。	現状を維持すると共に、今後配慮が必要な箇所があれば環境調整します。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々記録し、終礼時に職員間で申し送りを行い、月に一回は全スタッフで共有する時間を設け、目標設定など見直しより良い支援を考えています。	現状を維持し、職員間で意見交換しやすい環境整備に努めます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に一度、保護者の皆様に事業所アンケートにご協力をいただき、評価を真摯に受け止め、業務改善に努めています。	現状を維持し、保護者様のご協力をお願いしながら業務改善に努めます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		自己評価結果を紙面にて保護者様に配布し、ホームページにて公開しています。	現状を維持します。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	現在は第三者による外部評価は行っておりません。	今後については、必要性を重要視し検討していきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		月に一度、全体でスタッフミーティングを行っています。また、医師、心理士、言語聴覚士と勉強会を行い、知識を広げ学ぶ機会を設けています。スタッフミーティングでは、事例検討、研修等積極的に行っています。	現状を維持し、今後も保護者様のご要望にお応えできるよう、職員の資質向上に努めます。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		半年に一度を基本としています。児童の成長・発達に応じて適宜アセスメントをとるよう、環境変化やニーズに合わせて、支援計画を立て直し対応しています。	より分かりやすい放課後等デイサービス計画を作成していきます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	事業所独自の物で対応しています。	お子様や置かれている環境の把握ができるように内容を適宜見直します。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		支援にあたる全スタッフで意見を出し合い、その時々でより好ましいプログラムを考え提案していくようにしています。	現状を維持し、今後も保護者様のご要望にお応えできるよう、お子様の状態に合わせたプログラムを考えます。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子ども達の様子に合わせて、散歩、製作、運動等のプログラムを行っています。	現状を維持すると共に、社会体験プログラム等も取り入れながら固定化しないように工夫します。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		学校で一日頑張ってきた平日、一日ゆったりと長時間利用される休日や長期休暇、それぞれ児童の状況に応じて必要な支援を考え、課題の優先順位も考慮して対応しています。	現状を維持すると共に、利用時間に応じて生活能力向上のために必要な訓練や社会との交流の促進に努めます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		それぞれの児童の特性に応じて、個別活動と集団活動のバランスを考えて計画を立てています。	より分かりやすい放課後等デイサービス計画を作成していきます。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		その日利用される児童の活動内容、動きなどを確認し、スタッフ間でスムーズに活動支援が行われるよう打合せを行っています。	現状を維持し、スムーズに活動支援が行われるよう努めます。	

関係機関や保護者との連携	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	児童の活動状況、一日の流れを振り返るなどスタッフ間で共有し次回につなげるようにしています。	現状を維持し、振り返りが次の活動支援に生かせるよう努めます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	日々記録をとり、次に支援すべき点の検証を行い、改善すべき点はすぐに改善するよう努めています。	現状を維持し、情報管理を徹底します。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○	半年に一度を基本としていますが、児童の成長・発達に応じて、適宜サービス計画の見直しを行っています。	現状を維持し、適宜放課後等デイサービス計画の見直しをします。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	○	その時々状況に応じて、必要な活動をいくつか組み合わせるプログラムを立て、支援を行っています。	個々のお子様の状況に応じて創意工夫を重ね支援していきます。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	主に児童発達支援管理責任者が出席しています。状況により指導に直接当たる者が出席することもあります。会議終了後は現状報告をスタッフ間で共有し、記録を行っています。	現状を維持すると共に、担当者会議及び現状報告を行った記録の整備を行います。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	学校との情報共有はご家族を通して行っています。お子様の様子、連絡などに関しては連絡ファイルを利用し、またトラブル発生時に関しては、緊急連絡先に連絡を入れ、早急に対応するようにしています。	現状を維持し、学校との情報共有や連絡調整に努めます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	今のところ医療的ケアが必要なお子様の利用はありません。	今後医療的ケアが必要なお子様や重症心身障害のあるお子様の受け入れに備え、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行えるよう準備します。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	現状、就学以降に就学前に過ごしていた保育所や幼稚園などと情報共有した例はありませんが、申し送りのあった事業所との間で情報共有を行い、継続支援についてはスムーズに支援移行ができるよう努めています。	現状を維持し、保育所や児童発達支援事業所との情報共有や連絡調整に努めます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	今のところ事例がありません。	障害者福祉サービス事業所からの求めがあった場合には、ご本人及び保護者の方の同意を得て情報提供していきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	連絡をいただいた会議に積極的に出席し、助言・研修など受け支援にいかしていくよう努めています。	現状を維持し、児童発達支援センターや発達障害者支援センター等と連携し助言や研修を受けます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	公園などに出席する機会に地域の子どもたちと自然な形で交流をしています。	現状を維持し、今後も地域のお子様との交流の機会を大切にしていきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	福祉連絡会には必ず参加し、地域の困り事を他の事業所の方と一緒に協議しています。	現状を維持し、他の障害福祉サービス事業者等の皆様と地域の困りごとを協議していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	利用される日に直接お話をし、共通理解のもと支援を行っています。	現状を維持し、保護者の皆様と共通理解のもとで療育支援を行います。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	お子様の特徴的な困難に対し、具体的な対応の仕方について、保護者の皆様へ適切な支援を行っています。またペアレント・トレーニングや親としての対応力を図る講座の案内などは掲示案内などを行っています。	保護者の皆様がお子様との間でよりよい関わり取りができるよう、ニーズに合わせて支援します。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		規程を明確に提示し、質問などには速やかにお答えできるよう準備をしています。	現状を維持します。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		相談にはその都度お伺いして対応していますが、必要に応じて日時を改め、時間をしっかり取った上で、助言・支援などを行っています。	現状を維持すると共に、子育てにおける不安や悩みを共有し、一つずつ解決に導くための支援をします。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者会の開催を掲示にてお知らせ、自由参加の形式で実施しています。今年度は、R6.7.5～R6.7.12の期間で行いました。	より多くの方に参加していただけるように工夫していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		直接どんな事でも相談していただける関係・環境を作るようにしていますが、苦情に関しては相談窓口を設けています。	主訴やご意向をしっかりと聞き、ご指摘いただいた事については改善策を講じ、紙面で示しながら保護者の方へ説明をさせていただきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		年4回、その他イベントに応じてさくらん房だよりを発行しています。普段と違った活動を行った場合は、適宜お便りを発行しお知らせしています。	現状を維持し、保護者の方に分かりやすい紙面作りをしていきます。
	35	個人情報に十分注意している	○		契約時にお約束している通り、個人情報について職員一同十分に気を付けるよう徹底しています。職員の入職時には個人情報保護に関する誓約書の記載を求め、個人情報保護規定を作成し、年1回以上全従業員を対象に勉強会を行っています。	現状を維持します。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		イラストや文字で表示するなど、特性や成長にあわせて分かりやすく伝える方法を考え対応しています。保護者様には連絡ファイルを通して様子をお伝えしています。	現状を維持し、お子様や保護者様により分かりやすく伝えられるように努めます。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	地域の方をお招きする行事は行っていませんが、R5.12月には作品展に参加しました。又、買い物等の社会体験を通して地域の方との繋がりを大切にしています。	行事などに参加し、地域の方との関係作りを行います。社会体験については今後も状況に応じて検討していきます。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		事業所入口付近にマニュアルを設置して、いつでも手に取ってお読みいただけるようにしています。必要事項を抜粋したものを災害用伝言サービス体験の案内と同時に各ご家庭に配布させていただきました。	事業所の環境整備を更に進めると共に、災害用伝言サービスの体験利用を設けるなど、災害に対する意識を高めていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に一回訓練を実施しております。今年度はR6.7.30～R6.8.31に行いました。地元の消防士の方に実際に訓練の様子を見ていただき、指導をしていただきました。	避難訓練の反省点や修正点を職員皆で共有し、災害時に落ち着いて行動出来るよう改善していきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止マニュアルを策定し設置しています。月一回勉強会を行い、問題提議、意識向上などを図っています。	今後も虐待防止の意識向上に努めます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		それぞれのお子様の心身共に育やかな発達を願い、傷つけることのない様十分に配慮した上で、やむを得ずそのような状態になった場合を想定し、個別支援計画説明時に了解を得るようにしています。	現状を維持します。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者の方の申し出に応じて対応しています。	今後もアレルギー疾患に対する知識を身に付けていきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している。	○		事業所利用時、子ども達が過ごす環境内で起こった事案に関しては即日ヒヤリハット報告を行い、記録としていつでも目を通せる場所に保管し、意識付けが行えるようにしています。	今後も危険に対する意識向上に努めます。